

社説

基準地震動 規制委への不信が拭えぬ

これで果たして「魂」が入ったといえるのだろうか。

東京電力福島第1原発事故を受けて、原子力規制委員会が原発の新規制基準を決定してから、3年が過ぎた。田中俊一委員長は当時、「真価が問われるのは今後の審査で、そこに魂が入るかどうか」と強調していた。

その姿勢に疑問を抱かざるを得ない事態が起きた。

関西電力大飯原発(福井県)で審査済みの基準地震動をめぐる、前委員長代理の島崎邦彦東京大名誉教授が、計算式に問題があるとして過小評価の恐れを指摘したことへの対応だ。

基準地震動は、原発の耐震設計の目安となる揺れの大きさを表す。安全対策の根幹となるデータだ。それが適切に算出されていないとするなら、直ちに審査をやり直し、耐震性の強化に乗り出す必要がある。

基準地震動の設定する際に必要な地震規模を算出する方法は複数あり、地震動の計算と、津波の規模を想定する計算には別の手法が用いられてきた。

ところが、津波の想定が地震の想定を大きく上回る場合があり、「二重基準」との批判が以前からあったという。

島崎氏は2014年9月に委員を退任後、この問題に取り組み、熊本地震の観測データも用いて詳細に検証。主に西日本の原発で地震動が過小評価されている危険性があるとした。

名古屋高裁金沢支部で係争中の大飯原発3、4号機運転差し止め訴訟控訴審にそれを指摘する陳述書を提出し、規制委には大飯原発の基準地震動を別の手法で再計算するよう求めた。

島崎氏は地震学が専門で、委員を務めていた当時は、地震や津波の審査を担当し、大飯原発の審査も自ら行っている。その指摘は極めて重い。

規制委は、原子力規制庁に再計算を指示。当初の結果を下回ったとして、見直しは不要との結論を出した。

ところが、島崎氏の反論を受けて再計算の精度に問題があったことが判明し、議論をやり直すことになった。

田中委員長は「拙速だった。反省をしている」と述べたが、再計算の甘さに気づかなかったのは、過小評価という批判を否定するのを急いだためと見られても仕方あるまい。

規制委はその後、「審査で了承済みの地震動は不確かさを考慮の上、安全面に立った相当大的な設定だ」として再び見直しは不要との判断を示した。

だが、これではとても納得できない。

新規制基準は、新たな知見を取り入れて基準が改定された場合、既存原発にも適合を求める「バックフィット制度」を取り入れている。

田中委員長は、新たな知見は学会での議論を踏まえたものが対象になるとしており、今回の島崎氏の指摘はそれにあたらないとしている。だが、最高度の安全を守るためには、規制委が積極的に知見の妥当性について議論を起こすべきではないか。

今回の規制委の対応が国民の信頼を大きく損ねたのは間違いない。「魂」を入れ直す努力を求めたい。

[京都新聞 2016年07月31日掲載]

バックナンバー

2016年8月

2016年7月

- ・ 基準地震動
- ・ 日銀の追加緩和
- ・ トルコ大量粛清
- ・ 子宮頸がん訴訟
- ・ ASEAN会議
- ・ 最低賃金
- ・ クリントン候補
- ・ 相模原殺傷事件
- ・ 英のイラク報告
- ・ IOCの決定
- ・ 道徳の教科化
- ・ 鹿児島新知事
- ・ 福知山浸水対策
- ・ 先生も休もう
- ・ 辺野古再提訴
- ・ ロシア薬物不正
- ・ 介護保険見直し
- ・ 経済対策20兆円
- ・ 新出生前診断
- ・ トランプ氏指名
- ・ 世界遺産
- ・ 市民参加
- ・ トルコ反乱未遂
- ・ 英国新首相
- ・ 民泊新ルール
- ・ 仏トラック暴走
- ・ 野党共闘
- ・ 陛下「退位」意向
- ・ 東京都知事選
- ・ 南シナ海仲裁
- ・ 参院1票の格差
- ・ 閣議の異議却下
- ・ 南スーダン緊迫
- ・ 憲法めぐり発言
- ・ 米警察官銃撃
- ・ 参院選与党大勝
- ・ きょう投票
- ・ 年金の運用損失
- ・ 参院の役割
- ・ 在宅死
- ・ 温暖化対策
- ・ 熊本再審決定
- ・ TPP
- ・ 米軍属の扱い
- ・ 震災復興
- ・ パナマ運河拡張
- ・ 働き方改革
- ・ ダッカ武装テロ
- ・ 外国人単純労働
- ・ 政治とカネ
- ・ 課税逃れ対策
- ・ 原発再稼働
- ・ EU首脳会議

甲第
427
号証

